

分科会 9

ピアスタッフの今とこれから

シンポジスト：竹内政治（社会福祉法人川の郷福祉会グループホーム世話人）

川村有紀（社会福祉法人あおぞら 障害者相談支援事業所てれんこ）

今川亮介（未来の風せいわ病院これからの暮らし支援部地域医療連携室事務員・ピアスタッフ）

コーディネーター：相川章子（聖学院大学）

磯田重行（社会福祉法人つばめ福祉会）

今回、分科会 9 では日本の精神保健福祉分野で活躍する 3 人のピアスタッフの方に登壇していただき、現在の実践、これからの展望を語っていただいた。その後、参加者にも 5~6 名程度のグループでディスカッションしてもらい、会場全体で発表、意見交換を行った。

最初に竹内氏が自分自身の体験、現在のピアスタッフとしての仕事について語った。その中で利用者とのピアスタッフの対等性、賃金をもらっているピアスタッフとしての葛藤や、当事者の主体性、権利擁護について言及した。最後はピアスタッフの支援する上で、人としての感受性がいかに大切か語った。

二番手の川村氏は自分の病気の体験がいかに辛かったか語り、また福祉の教員に自分がピアスタッフになることを否定された経験も話した。それから自らピアスタッフとしてのアイデンティティーを確立するまでの過程、これからの展望を語った。

三番手の今川氏はアウトリーチ推進事業でのピアスタッフの役割、また現在所属するデイケアでの仕事について述べ、精神科医療の現場でのピアスタッフの重要性について語った。

3 人のシンポジストの発表の後、質疑応答の時間としたがフロアからは質問や自分の意見を述べたい参加者が 20 名近く挙手し、全ての方に話していただく時間は取れなかった。

休憩の後、グループディスカッションの時間とした。そこでも現在ピアスタッフをしている人、これから目指している人、または専門職が入りまじり活発な議論がなされていた。

この分科会の終わりにあたって今回のリカバリーフォーラムの基調講演をされたユミコ・イクタ氏がピアサポートの重要性、ピアスタッフの可能性について述べてこの分科会を締めくくった。

分科会 9 ではおおよそ 100 名の方が参加し、ピアスタッフについての関心が高まっていることが分かった。参加者の中には、当事者だけではなく専門職の方も多く、これからみんなでピアスタッフの普及とその地位の確立を議論していく土壌ができつつあると実感できた。

最後にこの分科会を企画に入れていただいたリカバリーフォーラムの事務局と登壇したシンポジストの 3 人に感謝し、報告としたい。

《磯田重行（社会福祉法人つばめ福祉会）》